

自立活動だより



先回のおたよりで、自立活動は

各教科等の学習が十分にできる状態や生活の基盤を作ること。自立活動は、学習を積み上げていくための発達の土台をしっかりと作るものです。

とお知らせしました。今回は子どもの困難さの背景にある要因を、どのようにアセスメントするとよいかについて考えていきます。

書きが苦手(文字が覚えられない、形が整わない)

「整えた文字を書くことができる」「升目の中に文字を書くことができる」などは国語的な目標になりますね。困難さの原因は何か、どんな力を付けていくとよいかを考えていくことが自立活動の視点になります。

○何に困っているのか
(観察できる事実)

書きが苦手



- ・はみ出す
- ・形が取れない
- ・筆圧が弱い、強い
- ・線が多い、少ない
- ・書き写すのに時間がかかる など

○なぜそうした困難が生じるのか
(背景となる要因)

困難の原因の予測



- ・空間認知？
- ・眼球運動？
- ・目と手の協応？
- ・協調運動？
- ・注意？
- ・視覚的なワーキングメモリー？ など

○書くことができるためには？

自立活動で取り組めること



・空間認知の力

↓
ブロック、積み木
など

・眼球運動の力

↓
ビジョントレー
ニングなど

・目と手の協応、
協調運動の力

↓
体操、紐通し、輪
ゴムかけなど

・視覚的なワーキング
メモリーの力

↓
絵カードやトランプで
神経衰弱

しっかりアセスメントしていくことで、このような手だてを見つけられるようになります！！

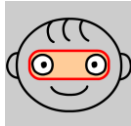


参考文献 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動(幼稚部・小学部・中学部)」文部科学省
「学習につまずく子どもの見る力」玉井浩監修 奥村智人・若宮英司編著 明治図書
「自立活動の指導」のデザインと展開 悩みを成長につなげる実践 32」北川貴章、安藤隆男編著 ジアース教育新社
「通常学級でできる発達障害のある子の学習支援」 内山登紀夫監修 川上康則編 ミネルヴァ書房

視覚発達支援あおぞら 茅野晶敬(ちの あきのり)先生をお迎えして、「見る力と学習支援～はじめのいっぽ～」という題目で講義をしていただきました。子ども理解の「守備範囲」を広げることの大切さや視覚認知検査で分かる力などについてお話がありました。文字の大きさや間隔、座席の位置、文房具など、外的視覚条件の支援についてもお話がありました。リーディングスリットについては手軽に作れる方法の紹介があり、「作りやすい」と思いました。地域の先生はじめ、多くの先生方が参加され、有意義な研修会になりました。

注視と眼球運動

- ・注視
- ・衝動性眼球運動
- ・滑動(追従)性眼球運動



夏季研修会に合わせて自立活動教材教具展を実施しました。



夏季研修会で紹介された本

自立活動全般



書籍や本校職員の自作教材の紹介をしました。過年度のものも含めて教材カードはホームページ内にありますので、ぜひご覧ください。



④環境の把握

①健康の保持



Q&A

本校の職員からの質問です。

〇〇〇



Q 「聞き取りにくい発音なので、様子を見ていたら息を吸いながら話す傾向がありました。自立活動でどんなことに取り組むといいですか。」

A 自立活動の「6 コミュニケーション(2)言語の受容と表出に関すること」ですね。呼吸の調整のために例えば、①両手を上げて息を吸い、胸の前で手を合わせて息を出しながら声を出す

→体の動きと息や声を合わせる

②ティシュペーパーを口の前にかざし、息を強くや長く出す練習をする

③腹を軽く押さえながら声を出す

などに取り組んでみてはどうか。

先回のおたよりで自閉スペクトラム症の子どもの入門編の本を紹介しましたので、今回は関連のある事柄について紹介したいと思います。

自閉スペクトラム症の特性として

- ・音などの刺激に対して敏感である。
- ・実行機能に困難さがあるために、先の見通しを持ちにくい。
- ・全体を把握する力に困難さがある。

などがあります。 ※どのような特性があるかは、個々により違いがあります。

そのような自閉スペクトラム症の子どもたちにとって分かりやすい環境として「構造化」という言葉を聞かれたことがあると思います。また、「TEACCH(ティーチ)」という言葉も聞いたことがあると思います。

構造化といわれるものには・・・

- ・物理的構造化(環境の構造化):物理的かつ視覚的に分かりやすくし、そこで何をするかを明確にする。
- ・時間の構造化(スケジュール):どのような活動をし、次に何をするのかを分かりやすく伝える。
- ・活動の構造化(アクティビティシステム・ワークシステム):何を、どのくらい、どのように行うのか、どうしたら終わるか、終わったら次は何をすればよいかを分かりやすくする。

があります。どれも、子どもたちにとって分かりやすいように環境を整備することになります。実は、駐車場に書かれている白いラインや公共施設のごみ箱についている表示など、私たちも構造化には助けられているところがありますね。

詳しく知りたい方は、下記の書籍を読んでみてください。

- 「自閉症児のための TEACCH ハンドブック 改定新版 自閉症療育ハンドブック」
佐々木正美著 学習研究社



基本理念から学校での構造化などが紹介されている入門図書です。

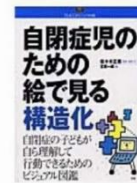
- 「よくわかる 自閉症スペクトラムのための環境づくり 事例から学ぶ「構造化」ガイドブック」
梅永雄二監修・著 学習研究社



基本の紹介から、事例まで、写真付きで分かりやすいです。

- 「自閉症児のための絵で見る構造化」
佐々木正美監修・指導・文 宮原一郎画
学習研究社

- 「自閉症児のための絵で見る構造化 パート2」
佐々木正美監修・指導・文 宮原一郎画
学習研究社



- 「気づき」と「できる」から始めるフレームワークを活用した自閉症支援」
水野敦之著 エンパワメント研究所

アセスメントなどの
CD-ROM 付



インターネットで、検索してみてもいいですね。

